

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.84 市民文化祭活動支援事業			従来は、市民文化祭実行委員会に対する補助金の交付として「助成事業」としてきたが、20年度から各公民館費及び芸術文化協会補助金の中に、それぞれ市民文化祭分の費用を加えた形に改革されたため、今回から事業名を「支援事業」とした。			担当課	社会教育課			予算費目名	款	項	目	
事業概要及び目的	各公民館・コミュニティセンター・あづまこども会館・ゆうゆう館・市民会館・文化ホールなど市内各所で市民文化祭を開催し、市民の文化活動の成果発表を行うものである。各施設・団体等実施主体それぞれが、独自のイニシアティブを發揮して観客数・出品数・参加団体数の増加、ひいては市民の文化意識の向上を図る。			成果目標	成果指標	①観客数、②出品者数、③参加団体数			年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
					計画値	①25,000 人、②7,000 人、③650 団体			予算額(単位:円)	0	0	0			
									決算額(単位:円)	0	0	0			
									従事職員数	1	1	1			
事業の位置づけ	章	1	豊かな人間性と暖かさを育むまち	★左記施策(号)との結び付き 市内全域にまたがる各施設で実施することにより、市民に身近で幅広い芸術・文化活動の促進を図る。			従事延べ日数	10	10	10					
	節	1	豊かな人間性を育む教育の推進				民間活力の導入 現状は? : <input checked="" type="checkbox"/> 実現している <input type="checkbox"/> 将来可能性はある <input type="checkbox"/> 将来困難だが可能性はある <input type="checkbox"/> 余地なし 相手は? : <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 市民活動団体 <input type="checkbox"/> 企業・学校等 形態は? : 共催								
	項	1	生涯学習、生涯スポーツ、芸術・文化活動の振興												
	号	3	芸術・文化活動の促進												

2. 進捗状況

				平成 21 年 7 月 21 日記入					平成 22 年 6 月 8 日記入					平成 23 年 4 月 20 日記入										
年度	21 年度評価 (20 年度実施した事項についての評価)								22 年度評価 (21 年度実施した事項についての評価)								23 年度評価 (22 年度実施した事項についての評価)							
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定年度終了後	実施	★継続している事項、未着手事項がある理由	実施計画上の予定	実施	実施計画の予定年度終了後	実施	★継続している事項、未着手事項がある理由	実施計画上の予定	実施	実施計画の予定年度終了後	実施	★継続している事項、未着手事項がある理由										
完了した事項	・市民文化祭実行委員会に対し補助金の交付、助成を行ってきたものから、各施設・団体等実施主体の財源に分割し、それぞれの財源で事業実施することに変更をした。			20 年度に助成形態を変更したばかりであり、各施設・団体における活性化の実現と定着が図られたとはまだ言い難いので、継続が必要である。	・各地区での運営委員会を主体とする市民文化祭の開催			現段階では、各施設・団体における活性化の実現と定着が図られてはならず、また、運営委員の交替もあるので、継続が必要である。	・各地区での運営委員会を主体とする市民文化祭の開催			備品の調達手配など、側面からの支援を行っている												
継続している事項	・各運営委員会が主体的に取り組み、それぞれの個性・特色を發揮した催しにするよう、活性化を促す。				・各運営委員会が主体的に取り組み、それぞれの個性・特色を發揮した催しにするよう、活性化を促す。				・各運営委員会(特に公民館以外の施設)が主体的に取り組み、それぞれの個性・特色を發揮した催しにするよう、活性化を促す。															
未着手事項																								
改善案	引き続き、市民文化祭を、一定の期間に統一テーマの下に、各公民館・コミュニティセンター・芸術文化協会などの参加団体が競って、それぞれの自主的な企画で展開し、活性化を促進すべく働きかけていく。			成果指標	実績値	達成率	引き続き、各公民館・コミュニティセンター・芸術文化協会を単位とした運営委員会を組織し、市民文化祭の自主的な企画、運営を支援する。公民館以外の職員の支援がより必要である地区運営委員会には、積極的な支援をする。	成果指標	実績値	達成率	引き続き、市民文化祭を、一定の期間に統一テーマの下に、各公民館・コミュニティセンター・芸術文化協会などの参加団体が競って、それぞれの自主的な企画で展開し、活性化を促進すべく働きかけていく。	成果指標	実績値	達成率										
				①24,837 人	99.3%		①25,237 人	100.1%			①24,747 人	99.0%												
				②6,632 人	94.7%		②6,165 人	88.1%			②7,298 人	104.3%												
				③668 団体	102.8%		③665 団体	102.3%			③665 団体	102.3%												

3. 今後の方向性

				※課内協議を経て管理職が記入してください。	平成 21 年 7 月 29 日協議実施					平成 22 年 6 月 10 日協議実施					平成 23 年 4 月 20 日協議実施
今後の方向性	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止
			○					○					○		
		休廃止	縮小	現状維持	拡充		休廃止	縮小	現状維持	拡充		休廃止	縮小	現状維持	拡充
		コストの方向性					コストの方向性					コストの方向性			
		★上記を選択した根拠 地域に根ざした伝統ある行事として、息長く支援する必要がある。					★上記を選択した根拠 「市展」や「第九」が文化の頂点をより高める行事であるのに対し、市民文化祭は文化の裾野を広げる行事である。引き続き支援しなければならない。					★上記を選択した根拠 文化の裾野を広げる行事として、引き続き支援する必要がある。各公民館のサークルが中心となっており、一般参加の余地が少ないことは改善すべき課題である。			
方向性を実現するため実施すること(改革案)	引き続き、市民文化祭を、一定の期間に統一テーマの下に、各公民館・コミュニティセンター・芸術文化協会などの参加団体が競って、それぞれの自主的な企画で展開するよう意識付けならびに工夫を凝らす等の促進を図る。					平成 20 年度に助成形態を変更したところ、それまで補助金の分配会議であった実行委員会が少し空洞化してきたようである。各地区運営委員会がバラバラにやっているのではなく、実行委員会が毎年度、共通テーマを設定することが必要であろう。					実行委員長を芸文協会長に固定したことによる利点と欠点を見直す必要がある。各地区運営委員会が自分の会場のことだけに目が行ってしまい、全体像を見渡せる人が少なくなってしまうことは欠点である。				
前年度改革案の実施状況	■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。					■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。					■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。				